## 【**八\$BEE**<sup>®</sup>-建築(新築) 評価結果 2021年SDGs対応版

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2021SDGs(v1.1)



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

- ■C: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率) ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
- ■評価対象のライフサイクルCO2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 東京工業大学(大岡山)附属科学技術高等学校校舎(仮称)

■使用評価マニュア、CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版

■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2021SDGs(v1.1)

ス=	コアシート 実施設計段階						
配慮	<b>意項目</b>	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み	評価点	重み	全体
0	建築物の環境品質		DT IM AN	係数	BT IMI AN	係数	3.8
	左矢物の原境			0.40		-	3.9
	音環境		2.8	0.15	-	-	2.8
	1.1 室内騒音レベル	NC35以下	4.0	0.40	3.0	-	
	1.2 遮音		1.6	0.40	-	-	
	1 開口部遮音性能	<del>-</del>	3.0	0.30	3.0	-	
	2 界壁遮音性能	D値=45	1.0	0.30	3.0	-	
	3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	<del>-</del>	1.0	0.20	2.0	-	
	4 界床遮音性能(重量衝擊源)	<del>-</del>	1.0	0.20	3.0	-	
2	1.3 吸音   温熱環境		3.0 4.0	0.20	3.0	-	4.0
2	2.1 室温制御		4.0	0.50	-	-	4.0
	1 室温	_	4.0	0.60	3.0	_	
	2 外皮性能	Low−eガラス等の採用	4.0	0.40	3.0	-	
	3 ゾーン別制御性	_	3.0	-		-	
	2.2 湿度制御	夏期50%、冬期40%	4.0	0.20	3.0	-	
	2.3 空調方式	放射空調・床吹出空調の採用	4.0	0.30	3.0	-	
3	光·視環境		4.4	0.25	•	-	4.4
	3.1 昼光利用		3.8	0.30	-	-	
	1 昼光率	ライトシェルフの採用	3.0	0.60	3.0	-	
	2 方位別開口	ㅡ ㅜ/,ㅋㅋ / ) IB/예호/ · · / 나 / ^ㅋ / ! ㅋ / ! ㅋ / ! ㅋ		-	3.0	-	
	3 屋光利用設備	天窓(トップライト)、頂側窓(ハイサイドライト)、ライトシェルフ	5.0	0.40	3.0	-	
	3.2 グレア対策 1 昼光制御	ブラインド・オーニングによるグレア制御	<b>5.0</b> 5.0	0.30 1.00	3.0	-	
	3.3 照度	教室の設計平均照度を5001×以上とした	4.0	0.15	3.0	-	
	3.4 照明制御	明るさセンサーを導入	5.0	0.15	3.0	_	
4	空気質環境	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	4.2	0.25	-	-	4.2
	4.1 発生源対策		5.0	0.50	-	-	
	1 化学污染物質	仕様建材は全てF☆☆☆☆	5.0	1.00	3.0	-	
	4.2 換気		3.0	0.30	•	-	
	1 換気量	-	3.0	0.33	3.0	-	
	2 自然換気性能	_	3.0	0.33	3.0	-	
	3 取り入れ外気への配慮	<del>-</del>	3.0	0.33	3.0	-	
	4.3 運用管理		4.0	0.20	•	-	
	1 CO <sub>2</sub> の監視	中央監視導入	3.0	0.50	-	-	
00	2   喫煙の制御 サービス性能	全館禁煙	5.0	0.50 <b>0.30</b>		-	2.2
1	機能性		3.6	0.40	-	-	3.3
l	1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	-	_	3.0
	1 広さ・収納性	_	3.0	-	3.0	_	
	2 高度情報通信設備対応	_	3.0	-	3.0	-	
	3 バリアフリー計画	_	3.0	1.00	-	-	
	1.2 心理性・快適性		4.0	0.30	•	-	
	1 広さ感・景観	_	3.0	0.50	3.0	-	
	2 リフレッシュスペース		3.0	-		-	
	3 内装計画	コンセプトを立案し、膨大な内装スタディを行っている。	5.0	0.50	1.0	-	
	1.3 維持管理 1 維持管理に配慮した設計	防汚性の高い塗装の採用や水切りによる外壁面の防汚処置	<b>4.0</b>	0.30 0.50	-	-	
	2 維持管理用機能の確保	防ったけの高い空表の採用や小切りによる外空間の防った過 清掃員控え室の配置や十分なスペースの一時ゴミ保管庫の整備	4.0	0.50			
2	2	いいかいた。と上ではた、「ハッ・・ハッ・バー・ホートから片ツを開	3.1	0.30		-	3.1
_	2.1 耐震·免震·制震·制振		3.0	0.50		-	3.1
	1 耐震性(建物のこわれにくさ)	_	3.0	0.80		-	
	2 免震・制震・制振性能	_	3.0	0.20		-	
	2.2 部品・部材の耐用年数		3.5	0.30	-	-	
	1 躯体材料の耐用年数	_	3.0	0.20		-	
	2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		4.0	0.20		-	
	3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	塩ビシート、塗装、ボード類、アルミ建具	3.0	0.10		-	
	4 空調換気ダクトの更新必要間隔	屋外露出・ピット内ダクトはステンレス	4.0	0.10	-	-	
	5 空調・給排水配管の更新必要間隔	塩ビライニング鋼管、塩化ビニル管、配管用炭素鋼鋼管(白)	4.0	0.20	•	-	
	6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20		-	
	<b>2.4</b> 信頼性		3.0 1.0	0.20 0.20	•	-	
	2 給排水・衛生設備	ー 節水型器具の採用、中水利用	4.0	0.20			
	3 電気設備	一 マール カング・ストルン ロイ・コー・ストルンロ	3.0	0.20		-	
	4 機械・配管支持方法	耐震クラスA	4.0	0.20		_	
	5 通信・情報設備	_	3.0	0.20		-	
	THE THE DRIVENIA						

2	<b>分内外,再车份</b>		2.2	0.20			2.2
3	対応性・更新性 3.1 空間のゆとり		3.3 3.4	0.30	-	-	3.3
	1 階高のゆとり	_		0.60	3.0	-	
			3.0			-	
	2 空間の形状・自由さ	可変性を持たせた計画とした	4.0	0.40	3.0	-	
	3.2 荷重のゆとり	<b>[</b>	3.0	0.30	3.0	-	
	3.3 設備の更新性		3.6	0.40	-	-	
	1 空調配管の更新性	概ね直天により更新・修繕スペースの確保	4.0	0.20		-	
	2 給排水管の更新性	_	3.0	0.20	. !	-	
	3 電気配線の更新性	空調配管はピット内配管	3.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性	_	3.0	0.10		_	
	5 設備機器の更新性	屋上に将来対応を含めた更新スペースを確保	5.0	0.20			
	6 バックアップスペースの確保		3.0	0.20			
00			3.0			-	4.0
Q3	室外環境(敷地内)		_	0.30	-	-	4.0
1	生物環境の保全と創出	既存希少植栽の保護、既存樹木保全	4.0	0.30		-	4.0
2	まちなみ・景観への配慮	大学の既存デザインを踏襲した景観形成を行った。	4.0	0.40	-	-	4.0
3	地域性・アメニティへの配慮		4.0	0.30		-	4.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	既存樹木を製材し、家具等に使用	4.0	0.50			
	3.2 敷地内温熱環境の向上	建築設備の主要機器を屋上配置	4.0	0.50	-	-	
ΙR	建築物の環境負荷低減性			_		-	4.1
LRI	エネルギー		_	0.40	-	-	4.9
1	建物外皮の熱負荷抑制	エネルギー消費性能計算プログラム、BPI=0.80	5.0	0.20	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用	ライトシェルフ・トップライトにより採光確保・自然通風利用	5.0	0.10		-	5.0
3	設備システムの高効率化	エネルギー消費性能計算プログラム、BEI=0.46	5.0	0.50	-	-	5.0
	効率的運用		4.5	0.20		-	4.5
	集合住宅以外の評価		4.5	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング	中央監視・スマートグリッドシステムの採用	4.0	0.50		_	
	4.2 運用管理体制	—	5.0	0.50			
	1.2		5.0	0.50			
	集合住宅の評価			-		-	
	4.1 モニタリング	<b>[</b>	3.0	-	-	-	
	4.2 運用管理体制	_	3.0	-		-	
LR2	!資源・マテリアル		_	0.30	-	-	3.5
1	水資源保護		4.2	0.20	- :	-	4.2
	1.1 節水	節水型器具	4.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		4.4	0.60		_	
	1 雨水利用システム導入の有無	雨水利用	5.0	0.70			
		וועייאוו				-	
_			3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減		3.3	0.60		-	3.3
	2.1 材料使用量の削減	[-	3.0	0.10	- 1	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用	_	3.0	0.20	- 1	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	_	3.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	_	3.0	0.20		-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材	1–	2.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	躯体+軽鉄+ボード仕上、OAフロア、可動間仕切りの採用	5.0	0.20		_	
3	汚染物質含有材料の使用回避		3.6	0.20			3.6
٥	3.1 有害物質を含まない材料の使用	床仕上げワックス	4.0	0.30			5.0
						-	
	3.2 フロン・ハロンの回避		3.5	0.70	-	-	
	1 消火剤	_	-	-		-	
	2 発泡剤(断熱材等)		4.0	0.50	-	-	
	3 冷媒	R32またはR410を使用	3.0	0.50		-	
LR3	敷地外環境		_	0.30	-		3.8
1	地球温暖化への配慮	-	4.2	0.33	-	-	4.2
2	地域環境への配慮		4.0	0.33		-	4.0
	2.1 大気汚染防止	空調・熱源機器はすべて電気方式	4.0	0.25		-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	_	4.0	0.50			
						-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制	東北海山加制計等の実施	4.0	0.25		-	
	1 雨水排水負荷低減	雨水流出抑制対策の実施	4.0	0.25		-	
	2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制	<del>-</del>	4.0	0.25		-	
	4 廃棄物処理負荷抑制	各教室に分別ごみ箱を設置、鉄骨など有価物についても定期的に	5.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮		3.3	0.33		-	3.3
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
	1 騒音	]-	3.0	0.50	-	-	
	2 振動	1–	-	-		-	
	3 悪臭	1_	3.0	0.50			
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制	1	3.4	0.40			
	1 風害の抑制	f l	3.0	0.60		·	
		_					
	2 砂塵の抑制		5.0	0.20	-		
	3 日照阻害の抑制	[	3.0	0.20	-	-	
	3.3 光害の抑制		3.7	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	照明デザイナーの参画及び広告物照明の抑制	4.0	0.70	-	-	
	2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	_	3.0	0.30	-	-	